

前半のチーム学習を評価しよう

07

目標

- ・前半のチームの学習を振り返り、改善点を確認しながら、今後の進め方を検討する
- ・個人で提出するショートレポートの準備をする

チーム学習

06-2

チームで構想した学校の改善点を確認して修正しよう

これまで自分たちのチームで未来の学校を構想したり、また、学校説明会で他のチームの構想を聞きました。

現在の学校教育で取り組んでいるのは、基礎基本の重視であったり、地域社会との協力や情報技術の導入であったりすることを学びました。

評価シートの内容を分析すると、自分たちのチームで伝えなかったことがうまく伝わっていなかったことや、構想の修正が必要なところもはっきりしたと思います。そこで、前回のポスターセッションの反省から確認できた改善点をもとに改めて基本的な事項を見直して、チームの学校を修正しましょう。

チーム学習

06-1

07-1

07-2

07-3

07-4

これまでのチーム学習の反省と今後のチーム学習の進め方を検討しよう

今週はこの授業の折り返し地点に相当しますので、これまでのチーム学習についての反省と、これからのチーム学習の進め方について検討しましょう。

《チームで考えるポイント 例》

- 06-1 チーム学習の評価(個人)
 - ・チームの役割分担は適切であったか
 - ・チームの情報交換の方法は適切であったか
 - ・学習の進め方は効率的であったか
- 07-2 チームの機能不全診断テスト
 - ・チームで機能不全に陥りやすい弱点はどこか
- 07-3 チーム学習活性化シート(チーム)
 - ・後半のチーム学習におけるチームの規範

個人学習

07-5

レポートを執筆する時のルール

レポートや論文を書くときには、一定のルールを守らなければなりません。たくさんルールが存在しますが、特に著作権などの人の権利を侵害するようなルール違反には気をつける必要があります。参考文献や引用文献、参照 URL(インターネットのアドレス)をしっかりと示しましょう。また、他人の個人ポートレート(写真)を載せないこと、HPの画像や資料を使用するときは許可を得て、出典を明らかにしておくこと、なども気をつけましょう。

- 推奨参考文献 1** 「だれも教えなかった論文・レポートの書き方」
 阪田せい子 ロイ・クラーク 著 綜合法令出版 1998。3
- 推奨参考文献 2** 「レポート・論文の書き方入門」
 河野哲也 著 慶應義塾大学出版会 2002。12



Web 提出

ショートレポート1

チームで構想した学校について修正事項を踏まえながらショートレポート(A4 2枚以上)に各自でまとめて提出しなさい。

※提出期限：学習支援システムで確認すること

最終レポート
との関わり

最終レポートの構成と評価方法については、Unit12の12-3, 12-4の資料を読んでください。



Web 公開

ショートレポート1を学習支援システムでチームメンバーに公開すること。

※チームメンバーからコメントをもらうためです。

?? FAQ ??

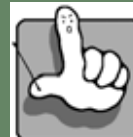
質問

Q: チームで決めたことと違ったことを書いてもいいのですか？

A: チームで決めたことと違ったことを書くのは構いませんが、チームで決定したことをまとめた上で、どの部分が違うのか、なぜそう考えるのかを書くことによって明確にしましょう。 →12-5 参照

後半のチーム学習

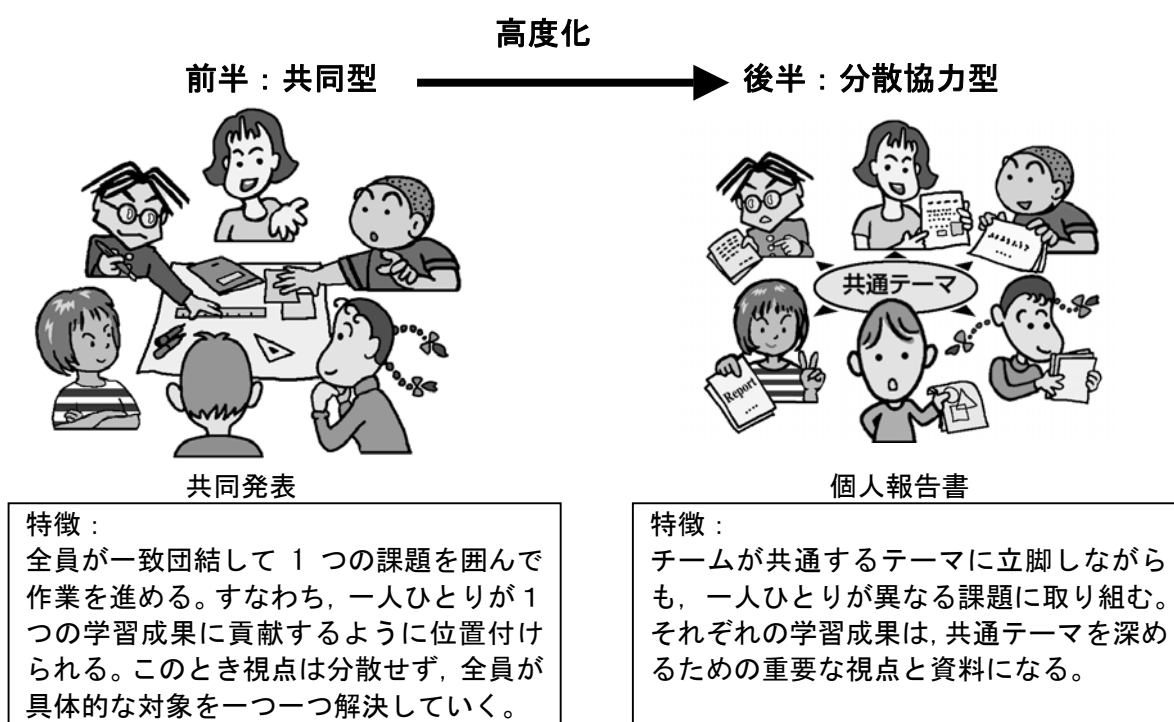
内容理解



●● 後半のチーム学習の意義を理解するために読みます

Unit03 で前半のチーム学習の規範を考えましたが(03-2-チーム学習活性化シート参照), うまく機能していたでしょうか?

後半のチーム学習は, 個人学習とチーム学習とを統合した形へと発展します。1つの大きな問題に対して個人が分担できる課題を明確にして, それぞれのチームメンバーが異なる切り口からチームの成果に貢献していくのです。イメージにすると次のような学習になります。このような能力はどのような組織であっても, 継続して学習する場合に欠かせない資質です。



Give and Take は Give から始まる

複雑な教育問題は, 一人の力で解決できるものではありません。問題に取り組むためには, 同じ学校の人, 地域の人, あるいは全国レベルでお互いに協力し, 情報を共有することが大切です。わが国の教育行政の一部には, 教育活動を活性化するために学校間に競争原理を持ち込もうとしている例もありますが, 社会での情報化の進展から考えるとまったく逆行しているといっていでしょう。むしろ教育の課題について学校間での協力体制をどのように構築するかが今後の課題です。そのためにはまず自分で実践してみて, その成果を他の学校でも利用できるような形式にしてインターネットなどを通じて流通させることです。この場合に, よく Give and Take といわれますが, まず自分から他の人に Give することが大切です。

以上を踏まえて, 前半の学習を振り返り, そこから得たことを活かして後半の学習をどのように運営すればチーム学習が更に活性化するのでしょうか。どのような規範を作ればチームがよりよく学習できるのでしょうか。別紙「07-3 チーム学習活性化シート2(チーム)」で考えてみましょう。



チームの機能不全診断テスト

●● チームワークを形成するための再確認のデータとなります

Unit07 になって、チーム学習も後半への折り返し地点に差し掛かりました。みなさんのチームは順調に学習できましたか？ それとも徐々に深刻な状況が生じてきていますか？ いずれにせよ、チームワークを形成するという事は、とても難しいものだと感じたチームも少なくないと思います。

1. チームの機能不全のモデル

アメリカで組織と経営チームの強化育成を専門とするパトリック・レンシオーニ(2003)は、著書「あなたのチームは、機能していますか？」(2003, 翔泳社)において、「本物のチームワークはいつになっても実現しにくい」ということと、「組織がチームワークの実現に失敗するのは、自然だが危険な5つの落とし穴に気づかぬうちに陥ってしまうせいである」ということを指摘しています。レンシオーニは「危険な5つの落とし穴」を下のように図示しています。



図1 チームの機能不全のモデル

パトリック・レンシオーニ「あなたのチームは、機能していますか？」p. 207 より

- 1 信頼の欠如 …チーム内で弱みを見せないことから生じる。
- 2 衝突への恐怖…腹を割って激しく意見をたたかわせない。あいまいな議論や慎重な発言が多い。
- 3 責任感の不足…表面的に同意をするため、決定を支持し責任をもつことができない。
- 4 説明責任の回避…チームのためにならない行動や態度をとった仲間をとがめるのに躊躇する
- 5 結果への無関心…チーム全体の目標より個人のニーズや自分の部門のニーズを優先させる

(※以上は「あなたのチームは、機能していますか？」より教材作成者がまとめたもの)

図1は、5つの機能不全が相互に関係していることを示しています。1つでも崩れると全ての機能不全を招く恐れがあるということです。レンシオーニの説明によると、要(かなめ)となる「信頼」が崩れるとたちまち全ての機能は働かなくなります。あなたのチームにどこか気がかりな部分があるとするならば、以上の5つを逆の見方で理解してみてください(例：2…アイデアをめぐって遠慮なく衝突する)。

裏面のテストは、レンシオーニが著書の中で示しているもので、チームが5つの機能不全にどこまで侵されているかを調べることができます。一人ひとりが取り組み、その結果を掲示板に書き込み、回答の違いについて議論してみるとよいでしょう。

テストの結果を掲示板に書き込んで公表しましょう。

2. チームの機能不全診断テスト

3 = いつもそうである 2 = 時々そうである 1 = ほとんどそうではない

- | | |
|--|-------|
| 1) チームのメンバーは、議論をするときに情熱があり互いを警戒しない。 | 1 2 3 |
| 2) チームのメンバーが互いの欠点や非生産的な態度を指摘する。 | 1 2 3 |
| 3) チームのメンバーが、同僚がどんな仕事(学習)をしているか、チーム全体にどのように貢献しているかを知っている。 | 1 2 3 |
| 4) チームのメンバーは、不適切、またはチームにダメージを与える可能性のある発言をしたり、行動をとったりしたときに、すぐに心から謝罪し合う。 | 1 2 3 |
| 5) チームのメンバーは、チームのために進んで自分の部門や専門分野を犠牲にする。 | 1 2 3 |
| 6) チームのメンバーは、自分の弱みやまちがいを堂々と認める。 | 1 2 3 |
| 7) チームの会議がおもしろく退屈しない。 | 1 2 3 |
| 8) 会議の途中で意見が合わなくても、最後に決定したことを同僚が責任をもって実行するという確信をチームのメンバーがもっている。 | 1 2 3 |
| 9) チームの目標を達成できないと、士気にかなりの影響がある。 | 1 2 3 |
| 10) チームの会議中に、最も重要で難しい問題が議題にのぼり、解決される。 | 1 2 3 |
| 11) チームのメンバーが、同僚の期待に添えないことを真剣に心配する。 | 1 2 3 |
| 12) チームのメンバーが互いの私生活について知っていて、気にせず私生活の話ができる。 | 1 2 3 |
| 13) チームのメンバーで議論をしたとき、明確かつ具体的な決議や行動案が示される。 | 1 2 3 |
| 14) チームのメンバーが互いの計画や手法に反論する。 | 1 2 3 |
| 15) チームのメンバーが、自分の貢献に対する評価は求めず、ほかの人の貢献は進んで評価する。 | 1 2 3 |

「1 信頼の欠如」の点数 = 設問 4・6・12 で丸をつけた数字の合計点 (点)

「2 衝突への恐怖」の点数 = 設問 1・7・10 で丸をつけた数字の合計点 (点)

「3 責任感の不足」の点数 = 設問 3・8・13 で丸をつけた数字の合計点 (点)

「4 説明責任の回避」の点数 = 設問 2・11・14 で丸をつけた数字の合計点 (点)

「5 結果への無関心」の点数 = 設問 5・9・15 で丸をつけた数字の合計点 (点)

それぞれの合計点によって、以下のことがわかります。

8～9点…チームに機能不全は現れていないでしょう。

6～7点…機能不全が問題になる可能性があります。

3～5点…機能不全に対処する必要があると考えられます。

出典：パトリック・レンシオーニ(伊豆原弓 訳) 「あなたのチームは、機能していますか？」
株式会社翔泳社 2003

※チームの機能不全診断テストに関する著作権は株式会社翔泳社に帰属します。

★5つの機能不全の理解と克服について詳しくは上記の文献を参照してください。

チーム学習活性化シート 2(チーム)

チーム学習



●● チーム学習を活性化させるための視点を提供した支援ツールです

チーム番号()

前半の学習を終えましたが、チーム学習を振り返ってみると、さまざまなことが思い浮かぶでしょう。「うまくいった！成功した！」というチームもあれば「このままではいけない」というチームもあるでしょう。後半は、前半に成功したり失敗したりして経験したチーム学習の学習技術を使って、さらにチーム学習を活性化させましょう。このシートは活性化させるための視点を提供した支援ツールです。

1. チームのつまずきを発見して活性化のバネにする

掲示板で公表された、メンバーそれぞれの「07-2 チームの機能不全診断テスト」の結果を以下の表にまとめてください。

氏名を書いてください	「1 信頼の欠如」の点数	「2 衝突への恐怖」の点数	「3 責任感の不足」の点数	「4 説明責任の回避」の点数	「5 結果への無関心」の点数

8～9点…チームに機能不全は現れていないでしょう。

6～7点…機能不全が問題になる可能性があります。

3～5点…機能不全に対処する必要があると考えられます。

以上の結果を見て、どのような傾向があるといえますか？ また、1つの機能不全項目において不揃いな点数が出た場合、高い点数が出た人の考えと低い点数が出た人の考えにはどのような違いがあるかを考えてみましょう。

07-3 で説明した機能不全の説明は、裏を返すと以下のように解釈できます。極端に低い点数が集まった項目に関しては、以下のアドバイスを改善のための参考にしてみてください。

- 1 信頼の欠如 …(特にリーダーは率先して)弱みや間違いを認めて助けを求めてみよう。
- 2 衝突への恐怖…チーム内に眠っている意見の相違を引っ張り出し、生産的な衝突を掘り起こそう。
- 3 責任感の不足…必ず全員の意見を真剣に考慮して、間違いを恐れず大胆に何らかの最終決定を下そう。間違いに気づいたら間違いから学ぶ姿勢を持って大胆に方向転換してみよう。
- 4 説明責任の回避…チームの規範を判断基準にして、互いのやり方にためらわず疑問を投げかけることで潜在的な問題を早く見つけよう。
- 5 結果への無関心…チームが目指す姿を明確にし、個人の目標よりチーム全体の結果を優先しよう。

(※以上はパトリック・レンシオーニ(伊豆原弓 訳)「あなたのチームは、機能していますか？」を参考にしてこの授業に合うように修正してあります)

2. チームの規範を見直して、より自分たちに合ったものに改善する

授業の中間段階まで共に学んできた仲間同士ですから、自分たちのチームの特性もよく分かってきていると思います。Unit03 で考えたチームの規範(03-2 チーム学習活性化シート)の中で、どこをどのように直すことで、更に自分たちに合った規範になるでしょうか。また、自分たちに必要な新たな項目とは何でしょうか。個人で振り返った「06-1 チーム学習の評価(個人)」を参照しながらチームで考えましょう。

「06-1 チーム学習の評価(個人)」の質問Dの数値で、それぞれのメンバーが掲示板に公表したものを下の表にまとめてください。

規範の項目	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名

どの項目が良く守れていますか？ どの項目が守れていなかったですか？ どのようなルールやマナーが新たに必要だと考えますか？ 自分たちがさらに努力すべきものは何ですか？

3. 目指したいチーム像をはっきりさせる

以上の1(チームの機能不全テストの解釈)と2(チームの規範の見直し)を踏まえて、自分たちのチームの良いところはどのような部分で、どんなところに欠点があるといえるかを整理しましょう。そして、具体的にどのような方法を取り入れることで、さらに●●な(目指すチーム像)チームになるかを考えてみましょう。(例：「言わなければいけないことははっきり言い合うこと」を守るなど)

チームで目指すことは を守ること

自慢できる点

克服したい欠点

具体的な改善策



チーム学習とパラグライダー

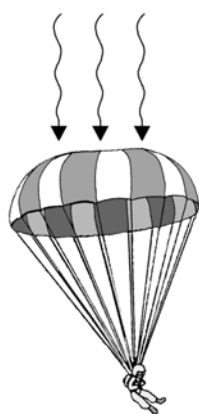
●● あなたのチームは現在どんなタイプの飛行をしていますか

1. チーム学習とパラグライダー

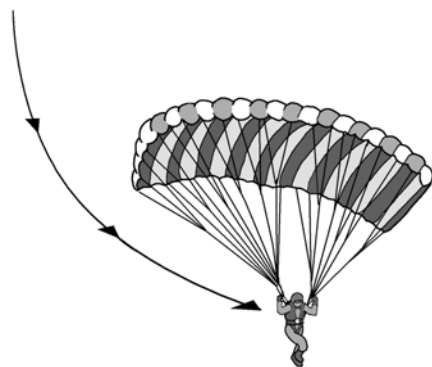
チーム学習は成功するとお互いに親しくなり楽しいですが、うまくいかないときは学習そのものに嫌気がさして参加することも大儀(たいぎ)になります。しかし、チーム学習はいつもうまくいくとは限らないのです。参加している人のそれぞれの性格や実力が違いますし、興味・関心や好みも違うのですから当然なことです。ところが何かのきっかけでそれまであまりうまくいかなかったのが突然うまくいくようになることもあります。このような状況をパラグライダーの発達の歴史に喩(たと)えることができるでしょう。

翼のような形をしたパラグライダーは、大空を自由に飛ぶことができるので、今や人気のスポーツになっています。その形状は飛行機や鳥の翼によく似ていますから、航空工学の知識が応用されたと考え勝ちですが、まったく似ていない落下傘から発達したもののなのです。飛行機から飛び降りるスカイダイビングでは、降下しながらパラシュートを展開して最後に着地するのですが、3人のフランス人はその着地が下手なので小高い斜面の上から落下傘をつけて飛び降りる練習をしていました。そのうちに3人はどこまで遠くに飛んで着地するかと飛距離を争うようになったのです。そうしているうちに、落下するのではなく滑空することに興味に移りやがて座布団のような方形の落下傘を考案しました。この形状ですとゆっくりと降下しながら滑空することができるようになりました。すなわち落下傘 Parachute による滑空機 Glider であるパラグライダー Paraglider の誕生です。

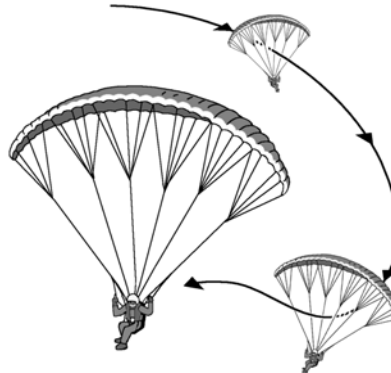
そうしているうちにアルピニストがこのパラグライダーに目をつけてアルプスに登山したときに山頂から歩いて下山するのが面倒なので、このパラグライダーをつけて飛び降りて麓(ふもと)に着地するようになったのです。これがきっかけとなってスポーツとしてパラグライダーが流行するようになり、いろいろなところでクラブが結成されて愛好家が増えてきました。すなわち着地の苦手な人が練習しているうちに生み出され、横着な登山家のアイデアで飛躍的な進歩をしたのです。原理が先にあって応用したわけではありません。とにかくやってみて夢中になることから新しいアイデアが生まれてくるのです。なお、パラパントということがありますが、フランス語の pente(斜面)という意味に由来しています。



落下傘
(落下のみ)



パラパント
(前方へ進みながら落下する)



パラグライダー
(滑空することができる)

レポートの執筆

●● レポートの提出ルールを説明します

執筆要項



1. 原稿

ワープロソフトを使用して A4 版の大きさの用紙に報告内容を編集し(文章の他にも図や表, 写真を使用することも可能), 学習支援システムに提出する。

2. ワープロソフトの設定

用紙設定 : A4 サイズ
文字数と行数 : 40 字×30 行(1 ページ 1200 字設定)
文字の大きさ : 見出し以外の本文は 10.5 ポイントを基本とする
枚数 : ショートレポートは 1~2 枚程度 最終レポートは 10 枚以上
(★最終レポートでは表紙と目次のページは枚数に含まれない)
その他書式 : 裏面を参照

3. 執筆内容の見直し

文法の見直し : 「である」調で統一されているかどうか。接続詞は適切かどうか。
分かりやすさ : 同じことを繰り返していないかどうか。主張したいことが分かるかどうか。

4. 提出時の注意

ファイル名

「教育方法学レポート」というファイル名で提出する人が多いですが, これではダウンロードした時に誰のファイルかが分からないので, 必ずファイル名を

**「学籍番号(半角)-チーム番号(半角)-氏名(全角). doc」
(空白文字を入れず, ハイフンで区切る)**

に変更してから提出してください。

再提出

提出期限までに時間があるとき, レポートを修正して再度提出することができます。

原稿の書式

↑ ↓ 余白 上 35mm 下左右 30 mm(Word 標準)

タイトル(12ポイント or 14ポイント)

学籍番号 学科 学年 チーム番号 構想した学校名
氏 名

1. (「はじめに」 など)
内容ごとに小見出しをつけて、整理して書く。1つの小見出しにつき、何十行も書いてしまうと大変読みづらいので必要ならば「小見出しの小見出し」を付けてもいいので、コンパクトにまとめるように心がける。

7週目のショートレポート(1回目)で書く内容

2. (「構想した学校の特色」 など)
(構想した学校の特色などを整理して説明する)

2回目のショートレポートや最終レポートでは、このように参考文献や引用文献を示す必要があります。

3. (「検討したい教育課題」 など) ※以下例文です。

私たちの学校は、主に学力低下の問題に注目している*¹。……
……荻谷(2002)*²は、2001年11月に関西都市圏で小中学生を対象に「学力テスト」と「生活・学習アンケート」を実施し、1989年に大阪大学のグループが実施した調査結果とを比較している。荻谷は、この調査により社会的階層によって学力の格差が生じていることを明らかにしている。……文部科学省は、ホームページで「子どもたちの学力の現状」を公開している。*³……吉崎(2004)は、「教育の方法と技術」の中で「一人ひとりの子どもに基礎的な学力を培うためには、子どもの学年段階、教科の特徴、単元内容、教職員の人数などを考慮しながら、多様な学習指導法を導入する必要がある」と述べている。*⁴このように……

※1 どのような教育問題を取り上げたのかを明確にする。その上でどのような学校を構想したのかを説明するとよい。

著者名は失礼の無いよう正確に!!

参考文献・URL (※2・※3 参考にした文献・URLは以下のように記述する)
荻谷剛彦ほか(2002)「岩波ブックレット No.578『学力低下』の実態」岩波書店
文部科学省「子どもたちの学力の現状」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/genjo.htm (2004.11.8 アクセス)

引用文献 (※4 文献の一部を引用した場合は必ず出典を記述する)
吉崎静夫(2004)「学力と学習の自己責任」『教育の方法と技術』ミネルヴァ書房 p.67 (←複数ページの場合は「pp.●-●」)

↑ ↓